

2004年度総会報告

議長団：河合 学・橋本吉登

2004年度 事業報告

1. 第10回記念大会の開催

2005年3月26日, 27日 東京女子体育大学

・シンポジウム:

「勝つためのゲームプランニング」

・オンコートレクチャー・基調講演・シンポジウム・一

般研究発表(ポスター)・総会・エキシビション

話題提供者・講師: 渥美 東洋氏, 都澤 凡夫氏,

吉田 敏明氏

・研究発表 24件

2. 研究集会の開催

第1回: 2004年7月3日, 専修大学 神田キャンパス,

参加者50名

テーマ「サントリーサンパーズ5連覇の軌跡と今後の展開」

鳥羽 賢二氏

「ミドルプレイヤーとしてのスパイク決定率の上げ方」

佐々木太一氏

3. 機関誌「バレーボール研究」の発行および発行準備

2004年5月1日に6巻1号を発刊

2005年5月発刊(7巻1号)にむけて現在準備中

4. 学会会報(ニュースレター)の発行

1回発行, NO11: 2004年9月10日

5. バレーボール関係研究文献データベースの整備と運用

バレーボール学会ホームページ上で公開予定

6. 研究調査補助

審査委員会による審査の結果, 該当研究なし

7. 会員名簿の発行

住所変更者の調査・訂正作業

8. 諸会議の開催

理事会

第1回: 2004年3月28日

明治学院大学白金キャンパス3号館3102教室

(理事長互選)

第2回: 2004年7月3日

専修大学神田キャンパス1号館8F, 8A会議室

第3回: 2004年11月3日

学習院大学北1号館1F, スポーツ健康科学

センター会議室h

第4回: 2005年1月29日

東京女子体育大会会議室

第5回: 2005年3月26日

東京女子体育大会会議室

第10回総会: 2005年3月27日

東京女子体育大学

主要役員会

第1回: 2004年4月17日

明治学院大学 ヘボン館 1F教員ラウンジ

第2回: 2004年5月15日

明治学院大学 ヘボン館 1F教員ラウンジ

9. その他諸事業の実施

・学会ホームページの運用と整備

<http://www.jsvr.org/>

・役員用メーリングリストの運用

・会員研究用メーリングリストの運用

・学会表彰に関する検討WGの活動

本学会の10年間の活動をサポートして頂いた,

東レ株式会社,

有限会社バレーボール・アンリミテッド,

アルケア株式会社,

有限会社ブックハウス・エイチデイ,

日本文化出版株式会社,

日本シグマックス株式会社,

以上6社の方々に記念式典において感謝状を贈呈した。

・学会HPに関する検討WGの活動

・第10回記念大会に関する検討WGの活動

・10周年記念出版に関する検討WGの活動

「Thinking Volleyball バレーボール100Q入魂」2005年

4月15日発売予定

2004年度収支決算中間報告

総 会 議 案

1. 収 入 の 部

(円)

項 目	金 額		摘 要
	予 算 額	決 算 額	
会 費	1,500,000	1,667,000	@5,000×306名分, 過年度分@3,000×45名分, 差額 2000×1名分
大会参加費	260,000	60,000	第1回研究集会参加 50名 54,000 過年度研究大会参加費 6,000
広 告 費	200,000	20,000	機関誌広告料 1件 (第1回研究集会)
広告費(前受金)		0	
繰 越 金	1,971,915	1,971,915	2003年度より繰り越し
雑 収 入	1,000	5,527	預金利息・機関誌頒布
合 計	3,932,915	3,724,442	

2. 支 出 の 部

(円)

項 目	金 額		摘 要
	予 算 額	決 算 額	
会 議 費	50,000	17,988	
事 務 費	50,000	64,025	文房具・学会印・振込手数料
通 信 費	200,000	130,900	
大 会 費	500,000	578,530	第1回研究集会： 228,530円 第10回研究大会： 350,000円 仮払い
印 刷 費	100,000	135,050	ニュースレター・封筒
機関誌発行費	550,000	452,550	「バレーボール研究6巻1号」発行
委員会経費	200,000	63,200	編集：50,000円仮払い 総務：13,200円
調査研究費	200,000	100,000	文献調査プロジェクト仮払い
Web運営費	50,000	40,195	学会サーバーの維持, 独自ドメイン管理費
予 備 費	100,000	20,737	感謝状, 賞状ファイル
次年度繰越金	1,932,915	2,121,267	
合 計	3,932,915	3,724,442	

以上御報告申し上げます。

2005年3月27日

バレーボール学会

総務委員会

委員長 後藤 浩史 印略

証拠書類等を監査の結果、以上の報告に相違ないことを御報告いたします。

2005年3月27日

バレーボール学会

監事 原田 智 印略

高橋 和之 印略

1) 2005年度事業計画

1. 11回研究大会の開催

日時：2006年3月4日(土), 5日(日)

場所：慶応大学日吉校舎

2. 研究集会の開催 2005年7月18日(祝)

大阪府下の障害者体育施設を予定

3. 機関誌(バレーボール研究: Journal of Volleyball Sciences: JVS)

第7巻の発行と第8巻の発行準備

4. 学会会報(ニュースレター)12号の発行

5. バレーボール関係研究文献データベースの整備と運用

6. 会員名簿の発行(隔年発行)

7. 研究調査補助

8. JSVRサーバーの運用とWeb管理

9. 選挙管理委員会の設置と会長・副会長・理事選挙の実施

10. 諸会議の開催

11. ワーキンググループを含む、その他諸事業の実施

2) 2005年度収支予算

1. 収 入 の 部

(円)

項 目	金 額	摘 要
会 費	1,500,000	@5,000×300名分(概数)
広 告 費	200,000	機関誌広告料
繰 越 金	2,121,267	2004年度より繰り越し
雑 収 入	1,000	預金利息
合 計	3,822,267	

2. 支 出 の 部

(円)

項 目	金 額	摘 要
会 議 費	50,000	諸会議
事 務 費	50,000	会費銀行振替関連経費, 振込手数料, 事務用品等
通 信 費	200,000	郵送料, 宅急便代等
大 会 補 助 費	300,000	研究大会, 研究集会等の 開催経費(研究大会 200,000円・ 研究集会 100,000円)
印 刷 費	150,000	ニュースレター・学会封筒・ 資料等の印刷・名簿作成
機関誌発行費	550,000	「バレーボール研究7巻1号」発行
委員会経費	200,000	編集, 企画, 総務, 渉外: 各50,000円
調 査 研 究 費	200,000	調査研究補助費・プロジェクト研究費
Web運 営 費	50,000	学会サーバーの維持, 独自ドメイン管理費
予 備 費	100,000	
次年度繰越金	1,972,267	
合 計	3,822,267	

3) 学会創立10周年記念出版について

学会創立10周年記念事業のひとつとして、記念出版を計画し、事業を進めていた。

本日「Thinking Volleyball バレーボール 100Q 入魂」のタイトルで発行することができた。なお、発売は2005年4月15日を予定している。

4) 2005年度調査研究補助金について

研究代表者：宮内一三（京都橘大学）。研究テーマ「一貫指導に関する指導現場の意識調査」に調査研究補助金を支給することが決定された。

5) 2006-2007年度役員選挙について

会長・副会長・理事の選出について

バレーボール学会会則および役員選出方法に関する申し合わせ事項に従い、会長・副会長・理事の選挙を実施します。最終的には、来年3月に開催される学会大会において、決定されます。

有権者 選挙者 バレーボール学会正会員の資格を満たしている会員
※但し、会長・副会長の選挙は本学会役員で行なう。

被選挙者 前年度よりバレーボール学会正会員
(ただし、9月30日現在で、該当年度の年会費を納入済みであることとする)

なお、詳細な実施案は選挙管理委員会で作成し、選挙を実施することが決定された。

バレーボール学会創立10周年 記念出版事業

「シンキングバレーボール 100Q 入魂」の編集にあたって
記念出版ワーキンググループ

委員長 遠藤 俊郎

1. はじめに

諸科学の進歩は日進月歩といわれる位に急速に変化しています。もちろんバレーボールを取り巻く諸理論もその例に洩れず、これまでの指導では当然と考えられてきたことが現代では否定されるといった事態も珍しいことではありません。しかし、これまでのこういった理論が現代でも通用し、逆にどの部分に対する認識を改めなければならないか、ということに関しては残念ながら体系的に整理されていないというのが現状です。

幸いなことに1994年に設立され10年の時を経たバレーボール学会は今日400名を超える会員を有するまでに成長し、さらにそれら各会員はそれぞれがスポーツ科学の様々な専

門分野に身を置きつつ、バレーボールを中心的関心事として日々研究・指導実践に勤めています。ここでいうところの「研究・指導実践」はいわばバレーボール学会が目指す方向性の両輪を成すものであり、私たちは「研究と指導実践は、バレーボールに関する諸仮説を科学的な目を持ちながら、調査分析で実証するか、指導実践で実証するか、の方法論の違いのみである」と考えています。

このように、バレーボール学会のこれまで10年間の活動を集約する意味も含め、会員の英知を結集して今一度バレーボールを科学的に見つめ直すことは多分に今日的要求に応えるものであると思ひ、本書の出版に至りました。

2. 編集に関する基本的考え方とそのプロセス

編集にあたってまず考えたことは、本書ではバレーボールに関して①「心・技・体」の3側面から科学的に、しかも中学生・高校生にも理解できるように平易に解説することを骨子とした。さらに、②各項目が冗長にならないようにQ&A形式で簡潔にまとめた。そして、次代を担う多くの選手たちが読んだ内容をヒントにして自分自身で思考し、さらに練習時・試合時の工夫へと参考にできるようにと考へ、本書のタイトルを「シンキングバレーボール 100Q 入魂」としました。

具体的には日頃から多くの選手や指導者が疑問に感じたり困っているとして耳にしたことのあるような質問項目をバレーボール学会員から広く募集し、応募のあった質問項目を「心・技・体」の3側面から以下の8カテゴリーを設定し100問に精選し、記念出版ワーキンググループメンバーを割り振りました。

- ①ベーシックスキル：これまで基本技術と呼ばれるプレーに関する事項（吉田清司・小林宣彦・廣紀江）
- ②ポジションスキル：各ポジションに求められる専門技術に関する事項（吉田清司・後藤浩史）
- ③チームプレー：戦術に関連する事項（松田裕雄・遠藤俊郎）
- ④インストラクション：指導に関連する事項（松田裕雄・遠藤俊郎）
- ⑤チームマネジメント：チーム内部・外部の環境整備、管理に関連する事項（遠藤俊郎・田中博史）
- ⑥メンタル：心理的マネジメントに関連する事項（遠藤俊郎・田中博史）
- ⑦ボディトレーニング：身体能力強化に関連する事項（吉田清司・小林宣彦・廣紀江）
- ⑧メディカル&フード：障害の予防や処置法、栄養学に関連する事項（橋本吉登・後藤浩史）

次いで執筆者には、各カテゴリーの内容に相応しい専門性を有する学会員に依頼し、最終的には57名に本文を執筆していただき、それこそ「会員の英知の結集」というテー

マに華を添えることができました。

最後にになりましたが、バレーボール学会創立10周年を記念すべく「シンキングバレーボール100Q入魂」を出版することができたのは、出版を快くお引き受け頂き、さらに我々記念出版ワーキンググループの拙い編集作業を温かく見守って頂いた日本文化出版(株)関係者のご厚情の賜物と心より感謝申し上げます。

また、十分な執筆時間も無い中、真摯にご対応頂いたバレーボール学会員各位、さらには編集に甚大な労力を割ってくれた記念出版ワーキンググループの各メンバーのご協力には適切な感謝の言葉も見つかりません。本当にありがとうございました。

しかし、これはまだ「会員の英知の結集」の第1歩にすぎないと我々は捉えております。学会としてこれからも2歩、3歩と歩みを進めていき、更に大きな果実の結実を見たいと考えておりますので、学会員の皆さんには今後とも是非関心を寄せて頂きたいと思っております。

「Thinking Volleyball」購入のお願い

日本文化出版・上野宛 (FAX: 03-3365-7393)

誌名: バレーボール学会設立10周年記念出版

Thinking Volleyball バレーボール 100Q入魂
~どうしたらパフォーマンスアップできるかに答える100のQ&A~

編集: バレーボール学会

定価: 980円(税込)



※よろしくご購入の程お願い致します。

事務局だより

本会も10周年を迎え、3月26日27日の記念大会、記念式典、4月15日に発刊された記念出版日本文化出版MOOK「Thinking volleyball バレーボール100Q入魂」、さらに機関誌記念号と、今までの学会としての活動を、ひとつの形とすることができました。

これらの事業は、多くの会員、関係者のご尽力によってなされたものです。マンパワーが結集できたことこそが、バレーボール学会の存在意義であることを再認識いたしました。

10周年というのは、一つの区切りに違いありませんが、それは、この10年のまとめというよりも、新たな10年の始まりと考えています。

学会と称するからには、それぞれの専門分野における学術的な報告は必要不可欠ですが、現場に役立ってこそ、学術的な報告も意味を持ちます。そのためには、報告者が現場に関わることはもとより、多くの現場の指導者と交流し、意見を交換することがなによりも重要になります。本会は、バレーボールネットワークとしての機能を、今後いっそう進めていかなければならないでしょう。

今年度は、2006-2007年度役員、会員全員による選挙が予定されています。有効票は、2005年度会費を納入いただいた全員となります。現在、年会費の引き落とし業務の準備を進めておりますが、相次ぐ銀行の合併、支店の統廃合で、引き落としのためにご提出いただいた情報の見直しに四苦八苦している状況で、今年度の引き落としは、7月初旬となります。会員各位にご迷惑をおかけし、申し訳なく存じます。

また、個人情報保護条例の施行に伴い、名簿掲載データも、会員各位に掲載の有無等を確認しなければなりません。

会員の皆様には、本会の活動主旨をご理解いただき、会費の納入・個人情報取り扱いの確認等にご協力いただくようお願い申し上げます。

(H.G)